

- ScholarOne Manuscripts User Conference 2016 in Nashville 参加レポート
- 国際編集者会議 (CSE) 2016 参加レポート
- 【サービス紹介】学会に特化したホームページの制作

SCHOLARONE
MANUSCRIPTS

ScholarOne Manuscripts User Conference 2016 in Nashville



Thomson Reuters (トムソン・ロイター) が主催する ScholarOne Manuscripts (S1M) User Conference (4月27日～28日) に今年も弊社からS1Mサポートチームが参加しました。今回はカントリーミュージックの聖地として知られるアメリカのテネシー州ナッシュビルで開催されました。通りを歩けば多くのレストランやバーから生演奏が聞こえ、楽器をモチーフにした看板やモニュメントが並ぶ街はまさに「ミュージックシティ」でした。

学術出版の対位法

Listening for Value : The Rest is Noise

カンファレンス最初のセッションはトムソン・ロイターの名誉顧問である James Testa氏による基調講演「Listening for Value : The Rest is Noise」でした。学術出版を音楽に例え、バッハが様々な楽器や旋律を組み合わせる対位法で美しい音楽を創り出したように、ジャーナルのインパクトを向上させるためには様々なデータを組み合わせて優れたコンテンツを配信することが重要であると述べていました。

隠れた名ジャーナルに光を当てる The Emerging Sources Citation Index

ジャーナルの価値を考える上で、掲載論文の引用数は最も重要視される要素の一つです。このセッションでは Web of Science Core Collectionに昨年11月に追加された新しいデータベース「The Emerging Sources Citation Index (ESCI)」が紹介されていました。ESCIは新興であったり注目度の高い分野や地域性の高いジャーナルを集めることを目的として作られ、Web of Science Core Collectionの主要なデータベースとは異なる基準で収録ジャーナルが決まるとのことでした。ニッチな分野であればこそ、研究者の目に留まる機会が増え、引用数の増加が期待できます。

バージョンアップ情報

Product Update and Future Direction

弊社のHPで公開しているあんずジャーナルでもご紹介しましたが、今回のバージョンアップ情報における大きなトピックの一つは先日のバージョンアップにより実装されたメインメニュー画面と Author Centerのデザインリニューアルでした。これにより著者画面のリニューアルがほぼ終了したため、次は査読者に関わる画面のデザインリニューアルを計画しているとのこと、参加者から現在のインターフェースに対する意見を募る場面もありました。

S1Mに追加される新機能としては「エディターコラボレーション」が紹介されました。これは一つの論文に対して複数

の人がコメントを残せるという機能で、意見交換の場として使用します。2016年冬のリリースを予定しています。

外部サービスとの連携 Web Services

「Web Services」とは Overleaf、Kudos、Publons、RightsLinkなど外部サービスとの連携の総称です。「IMPROVING THE END USER EXPERIENCE THROUGH PARTNERSHIPS」というセッションでは、これら4つのサービスの代表者によるプレゼンテーションが行われました。

またORCIDとの連携についても複数のセッションで発表されていました。

より使いやすく、より多機能に

今年のカンファレンス全体を振り返ってみると、Web of Scienceをはじめとし

て新しく連携する4つの外部サービスや ORCIDなどに関する情報が目立ちました。外部サービスとの連携強化によりオプションの選択肢が増え、カスタマイズ性が大きく向上します。一方、S1M本体については「Home」画面や「Author Center」のようにデザインに関する情報が中心でした。外部との連携による多機能化とデザイン変更によるユーザビリティの向上によりどのように進化していくのか、S1Mの今後にご期待下さい。

開催予告

第5回

SCHOLARONE
MANUSCRIPTS
ユーザーカンファレンス

今秋開催！

国内でS1Mをご利用いただいているユーザー様を対象としたカンファレンスを今年も秋に開催予定です。2012年に開始しました本イベントも早いもので5回目を迎え、今回はジャーナル編集に携わる皆様にとって有意義な基調講演、先日実施されたv4.19リリースおよび今後予定されているリリース内容の紹介など、多彩なプログラムを鋭意編成中です。詳細は後日ご案内いたします。

ぜひご参加ください！

Web Services (外部サービスとの連携)



Overleaf

オンライン上でLaTeXもしくはRich Textを使って論文を編集できるサービスです。



RightsLink

Copyright Clearance Centerが提供する採用論文の掲載料を著者から集めるサービスです。掲載料は論文種別などによって設定することができます。



Kudos

研究者がSNSなどのソーシャルメディアを使って自分の論文を宣伝するのを補助するサービスです。



Publons

様々なジャーナルでの査読実績を集約し、「見える化」するサービスです。S1Mとの連携により査読実績をS1Mから直接Publonsに送れるようになります。

新しいジャーナルの 立上げに必要なこと

これまでに複数のジャーナルを立上げている出版社、および学会のスタッフによる、ジャーナルを創刊するにあたって必要な準備に関するセミナーに参加しました。

新たにジャーナルを創刊するには、まず始めに、現在、どのようなジャーナルが既に存在しているのか、そして、研究者はどのようなジャーナルを必要としているのか、といった事前調査が不可欠であるとの発表がありました。創刊に向けた作業には、編集委員会の組織やジャーナルタイトルの決定など、非常に幅広い作業や数々の決定事項が伴います。医学系学会の編集責任者によると、これらの作業には少なくとも1年は必要で、場合によっては複数年にも及んだことがあったそうです。しかし、現在は世界中で多くのジャーナルが次々と立上げられており、質を保ちながらも、そのスピードに追い付くことが重要だという内容でした。

少ない予算で最大限の インパクトを出す

ジャーナルの編集事務支援サービスやジャーナル向けのSNSサービスを行って



国際編集者会議 (CSE) 2016 参加レポート

2016年5月16日-18日に開催されたCSEのAnnual Meetingに今年も参加しました。今回はロッキー山脈の麓の街、アメリカのコロラド州デンバーで開催されました。デンバーは自然が豊かなことで知られており、全米からアウトドア好きが集まる街として有名です。海拔約1,600m (=1マイル) 程の場所にあることから、Mile-High Cityとも呼ばれています。標高が高いため、少し運動するだけで息切れがしました。今年も様々なトピックに関するセミナーが開催されましたが、その中でも興味深かった3つのセミナーについて紹介します。



プログラム

1
日目

- ▶ **ジャーナルの創刊に必要な事**
- ▶ **低予算で最大限のインパクトを出す**
- メディアの活用
- 高まるオープンアクセス化への対応

2
日目

- オークションへの対応
- 進化するPeer Review
- ▶ **ビジネスモデルの変化と編集・制作への影響**
- 編集事務局員の在宅勤務を考える

いる企業の方々による、少人数で構成されている学会のジャーナル運営に関するセミナーもありました。

小数精鋭のスタッフで運営しているジャーナルにとって、人材やコストは限られている反面、スピーディーに物事を決定できるというメリットが挙げられました。また、少ない人数で運営を行うためには、業務のアウトソースを行うことに

よって効率を上げることができ、編集事務局が持っているリソースをジャーナルの質や価値の向上のために集中して活用できるとの提案がありました。

ジャーナルの ビジネスモデルの見直し

ジャーナル運営とそのビジネスモデルについて、複数の学会の出版事業の責任

者達がディスカッションを行うセッションでは、現在の学術ジャーナル出版の市場においては、急速にビジネスモデルが変化しており、著者だけではなく、出版する学会側でも混乱が起きやすい状況にあると言及していました。投稿者の混乱を防ぎ、利便性を図るためには、常に自らのビジネスモデルを精査し、見直すことが重要であり、その際の項目として、投稿規定、導入しているPeer-Reviewシステム(single/double-blind、またはclosedやopen)、著者が負担する費用(投稿料、掲載料)、ジャーナルの公開プラットフォーム、ホームページなどを挙げていました。同時に収益モデルについても定期的に見直しを行い、より時代の流れに沿ったものに改善し続けることが、学会だけではなく、学会のステークホルダー全体のメリットに繋がるとのことです。また、これらの見直しと改善を行う際には、客観的な意見も重要になるため、当事者だけではなく外部の会社や人材にアイデアや提案等を求めることが重要であると述べていました。

杏林舎はこれからも様々な機会を通じて情報を収集し、皆様のお役に立てるように努めてまいります。

サービス紹介 学会ホームページの制作・管理・運用

「学会」に特化したホームページ制作

パンフレットを同封しています！
ホームページのご担当者様にお渡しください

300を超える制作実績、学会サイトに特化した様々な機能&サポート

ホームページの制作会社はたくさんありますが、杏林舎は、学会・協会・研究会など各種学会サイトを専門に行なっています。ホームページやオンラインジャーナル制作、Webシステム開発、運用までをトータルに行なっており、300サイトをを超える制作・運用の実績があります。その経験を生かし、学会のホームページに特化した、さまざまな機能やサービスをご提供できることが最大の強みです。実績をご覧ください「あ、このサイトもそうなんだ」と

思っていただけはらずです。また、ホームページの「運営をサポート」するサービスも行っています。現在100を超えるホームページをお預かりし、運用の代行や、情報掲載のアドバイスをはじめ、「他の学会ではどうしてるの?」といったご相談にお応えしながら、専門のデザイナー・サポートスタッフがチーム体制で、みなさまのホームページの管理・運用をサポートしています。



編集後記

今号では海外で開催されたイベントへの参加についてご報告しました。SIM User Conference 2016では、今後の機能向上や外部システムとの連携、そして、連携予定の外部システムの代表者から、その利点についての話などがありました。昨年の秋から段階的に行われているシステム画面のレイアウト変更に関しては、トムソン・ロイターが2年以上の時間をかけ、SIMシステム操作未経験者のバイアスのない意見を中心にコメントを集約し、精査が行われています。その調査では「画面の説明文が多すぎて読む気がしない」という意見がもっとも多かったため、直観性の更なる向上を最優先として改善に取り組んでいるとのことでした。次は査読者画面のユーザビリティ向上を目指したレイアウト変更に取り組んでいくとの発表がありましたので、詳細がリリースされましたら皆様へご案内させていただきます。

S1M NEWS

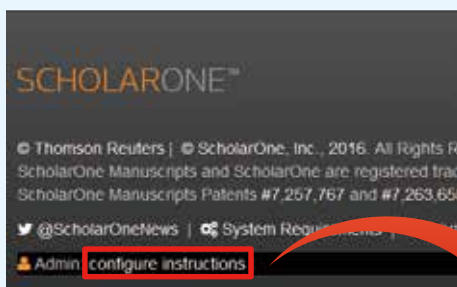
2016年8月16日発行 第11号

発行 株式会社 杏林舎
〒114-0024 東京都北区西ヶ原3-46-10
TEL. 03-3910-4311
FAX. 03-3949-0230
URL http://www.kyorin.co.jp

編集・制作・デザイン 株式会社 杏林舎
E-mail s1mnl@kyorin.co.jp

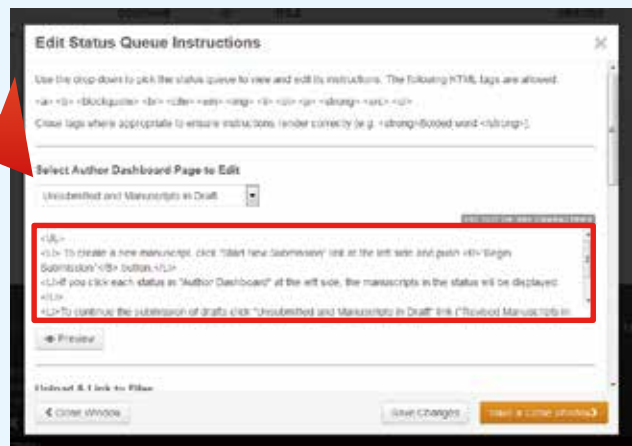
©株式会社 杏林舎 本誌掲載の記事・写真・イラストレーション等の無断転載を禁じます。

著者センターの説明文の編集



- ① 事務局権限をもつアカウントでログインし、Author Centerを開きます。
- ② 画面左下の“Configure Instructions (説明文の編集)”をクリックします。
- ③ 編集画面が立ち上がるので、テキストボックスに説明文を入力します。

テキストボックスの上にあるプルダウンメニューから「新規投稿の開始」「修正論文(未提出)」などの論文ステータスを選択すると、著者がその画面を開いた時に表示される説明文を編集できます。



こんにちは！学術ソリューション課の山田です。
今回は先日のバージョンアップで実装された「著者センターの説明文の編集」をご紹介します。
状況に合わせた説明文を用意することで、スムーズに投稿作業を行えるようになりますよ！

